資料６

第２次国分寺市総合ビジョンの策定状況について

１　有識者，事業者，市民等による検討組織の設置について

市民，市に関わりの深い各種団体の代表者，有識者等で構成する「第２次国分寺市総合ビジョン等策定検討委員会」を設置し，多様な視点から意見聴取を行う。

	日付	時間	会場
第１回	令和５年８月３日（木）	午後７時～９時	国分寺市役所
第２回	令和６年１月頃	未定	未定

２　市民参加等について

（１）　若者へのアンケート及びワークショップ

アンケートとワークショップにより，次世代を担う若者の意見を広く聴取する。

【アンケート】小学生・中学生を対象

	実施時期	方法
第１回	令和５年８月下旬から ９月上旬まで	学習用タブレットのアンケート機能を活用

※アンケート内容は別紙１のとおり。

【ワークショップ】15歳から22歳までの在住・在勤・在学・在活者を対象

	日付	時間	会場
第１回	令和５年９月30日（土）	午前９時～正午	東京経済大学
第２回	令和５年９月30日（土）	午後２時～５時	東京経済大学

（２）　市民ワークショップ

住民基本台帳より無作為抽出した3,000人から申込みがあった方を対象に，市民ワークショップを開催する。

	日付	時間	会場
第１回	令和５年９月16日（土）	午後２時～５時	本多公民館
第２回	令和５年10月28日（土）	未定	未定

（３）　職員ワークショップ

総合ビジョンに対する認識を深めるとともに，本市の将来のまちづくりを担う若手職員（おおむね令和２年度から令和５年度までの入庁者）の自由な発想による意見の聴取を目的に，職員ワークショップを開催する。

	日付	テーマ
第１回	令和５年７月19日（水）	８年後の未来のまちの姿について
第２回	未定	未定

（４）　デジタルプラットフォームを活用した新たな市民参加

市民ワークショップやアンケートによる従来の市民参加の手法に加え，デジタル技術を活用した，時間や場所にとらわれない新たな市民参加の機会を創出するため，住民参加型合意形成プラットフォーム（Ｄｅｃｉｄｉｍ）を活用し，多様な市民の意見収集等を行う。活用方法は別紙２のとおり。

３　今後のスケジュール

時期	項目
令和５年10月	・小中学生向けアンケート，各種ワークショップ等の実施
令和５年11月	・基本構想原案の作成，国分寺市人ロビジョンの策定
令和６年２月	・基本構想案のパブリック・コメント実施
令和６年６月	・基本構想の議案を上程

別紙１

Q１：あなたにとって国分寺市はどのようなまちですか（自由記述）。

［　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］

Q２：あなたにとって国分寺市の自慢できるところはどこですか（３つ選んでください。）。

□元気に遊べる場所があるところ
□困ったときに相談できる場所があるところ
□電車やバスを利用して出かけやすいところ
□道路がきれいで歩きやすいところ
□自然が豊かなところ
□公園がたくさんあるところ
□買物できるお店がたくさんあるところ
□歴史や文化を大切にしているところ
□図書館や児童館などのみんなが使える施設がたくさんあるところ
□災害や犯罪から安全・安心に暮らせるところ
□誰にでもやさしいところ
□お祭りなどの行事やイベントがたくさんあるところ
□スポーツができる施設や場所がたくさんあるところ
□ごみが少なく，清潔できれいなところ
□農業が盛んなところ
□病院や診療所がたくさんあって健康で元気に暮らせるところ
□近所の人との交流が多く，助け合っているところ
□特になし

Q３：あなたが大人になったとき，国分寺市がどのようなまちになっていて欲しいですか（３つ選んでください。）。

□元気に遊べる場所があるまち
□困ったときに相談できる場所があるまち
□電車やバスが利用しやすく，出かけやすいまち
□道路がきれいで歩きやすいまち
□自然が豊かなまち
□公園がたくさんあるまち
□買物できるお店がたくさんあるまち
□歴史や文化を大切にしているまち
□図書館や児童館などのみんなが使える施設がきれいなまち
□災害や犯罪から安全・安心に暮らせるまち
□誰にとってもやさしいまち
□お祭りなどの行事やイベントがたくさんあるまち
□スポーツができる施設や場所がたくさんあるまち
□ごみが少なく，清潔できれいなまち
□農業が盛んなまち
□みんなが健康で元気に暮らしているまち
□近所の人との交流が多く，助け合うまち
□特になし（今のままで良い）

Q４：あなたは国分寺市をどのようなまちにしたいですか。（自由記述）

［　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］

市民参加型合意形成プラットフォーム「Decidim」について

別紙２

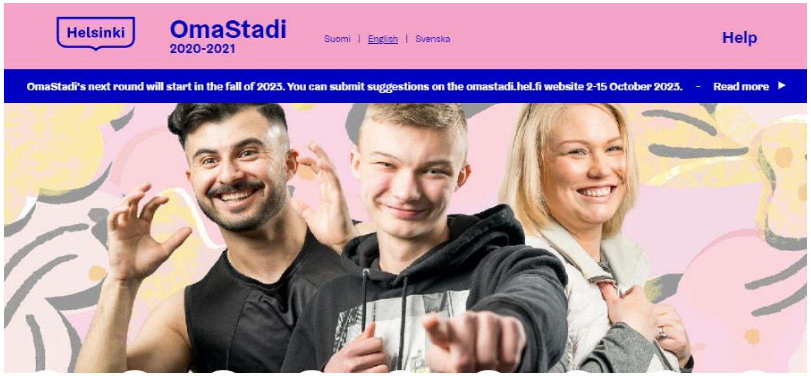
- Decidim （カタルーニャ語で「私たちが決める」） とは， 2016 年にスペイン・バルセロナで誕生したオープンソースの参加型合意形成プラットフォームであり，世界18か国で300以上の組織に導入されています。
- 例えば，ヘルシンキ市では，参加型予算編成プロジェクトにおいて，住民の願いを実現するために880万ユーロ（約13.7億円）の予算を確保しました。アイディアを募集し，提案を立案するプロセスなど，各フェーズはDecidimにより運営されています。

Decidimの主な機能

ディスカッション	主催者の提案を公開，説明，投票，コメントするための参加型スペース
参加スペース	コメントスレッドを通じて管理者が開始したディスカッションを実施できるスペース
リサーチ	選択肢形式のアンケートを実施できる機能
予算	様々なプロジェクトに投票したり，予算とその執行状況を追跡したりできる参加型予算の実施機能
ニュース	管理者は，記事を投稿し，ユーザーは記事にコメントが可能

参考： Demo Decidim by OSP

活用事例（ヘルシンキ市）



参加型予算編成プロジェクトの各フェーズ

- ブレーンストーミング（誰でもヘルシンキ市に改善に向けた提案を提出できる。）
- 共創（基準を満たした提案は施策として立案され，市の職員が提案のコストを見積もる）
- 投票（12歳以上の居住者が投票できる）
- 実施（市は，最多票の提案を実施する）

参考： Help - OmaStadi

confidential ©2023 ABeam Consulting Ltd.

日本における「Decidim」の導入事例

- 日本では，加古川市が2020 年に日本で初めて自治体として Decidim を導入し，施設の愛称募集や河川敷の利活用アイデア募集などのテーマで，市民との活発な意見交換を行っています。
- 加古川市では，Decidim をそのまま日本語化するのではなく，加古川市が必要な機能を絞ってプラットフォーム化を行っています。
- 加古川市以外でも，自治体，民間企業の多くのプロジェクトが進行しています。

Decidimの機能（加古川市の場合）

ディスカッション	市側の提案に対して，Decidim 利用者が意見やアイディアを記入できる。
参加スペース	オフライン（リアル）でのワークショップや策定委員会の開催結果をDecidim上に公表する。 また，継続的に議論する議題を設置し，市民に意見交換を行ってもらう。

活用事例（兵庫県，世田谷区）

- 兵庫県では，新ビジョン検討への参画の輪を広げるため，オンラインで意見交換を行う場を設けた（登録者338人）。

- 世田谷区では，次期基本計画について，区民と継続的な意見交換を行うため，試行導入を行う（現在実施中）。

参考：日本では，一般社団法人 コード・フォー・ジャパンが日本版のDecidim のサービス提供を行っています。

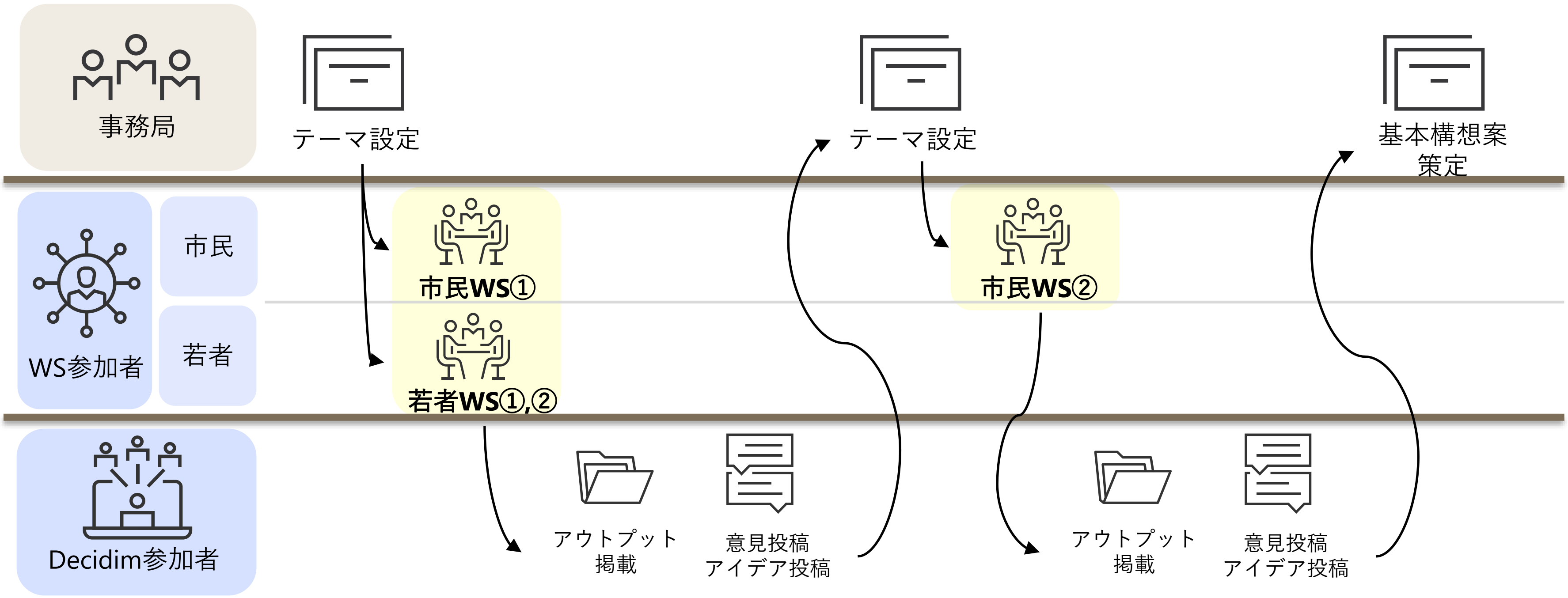
confidential ©2023 ABeam Consulting Ltd.

第２次国分寺市総合ビジョン策定における「 Decidim 」活用イメージ

■ 対面開催のワークショップ等，市民参加の過程をWeb上で可視化し，参加者と共有します。

■ ワークショップで議論された内容を周知し，Decidim内で意見やアイデアを募集することで基本構想の検討を深めます。

国分寺市での活用方法（案）



confidential ©2023 ABeam Consulting Ltd.